

課外活動をサポート

体力、感性ともに充実を

学生部長 近藤 進

情報システム学科・教授



大学では、講義や演習などの学修のほかに多くの課外活動をサポートしています。国際化・情報化の基礎知識やスキルを修得するとともに、スポーツや文化・学術研究活動を行い、社会人として期待される能力を身につけることも重要です。

企業が学生に求める資質として、熱意・バイタリティー・協調性・コ

ミュニケーション能力等があげられています(たとえば『国際・情報』21号)。これらは、大勢の仲間と、積極的に課外活動に取り組むことにより、育むことができます。学生部では、生活指導とともにこの課外活動を支援しています。

運動部などの公認団体や同好会の活動、学友会活動、大学祭・スポーツ大会・フレッシュマンキャンプ、ボランティア活動などです。費用は、学生・教職員から集める学友会費、大学や父母会からの活動補助費、企業からの寄付で成り立っています。全国大会に出場したり、北信越でトップを争ったりしている運動部から、長年にわたって地道に活動を続けている地域のボランティアまで、いろいろな分野で多くの団体が活躍しています。また、学友会や紅翔祭も多

くのバイタリティーあふれる学生によって支えられています。スポーツ部・文化部・学術研究部に参加している学生は約350人です。同好会も約150人の学生が参加しており、合計約500人で全学の4割にあたります。20歳前後は、人生でもっとも体力・感性とも充実しているときです。課外活動に積極的に取り組み、友人の輪をひろげ、より実りある楽しい学生生活をおくってください。



ゴール前で技を磨くサッカー部

紅翔祭で民族衣裳を披露した中国文化研究会

誇りをもって任務に

学友会執行部の会長、副会長は毎年、全学生による選挙によって選ばれます。会長は日常の学友会員のまとめ役です。年間の予算を執行し、スポーツ大会や紅翔祭などでリーダーシップを発揮し、大学側と学友会員との調整をします。

学友会活動の中でも、公認団体活動(部活動)と紅翔祭(学園祭)は学友会費をほぼ二分する大きな事業であり、2人の副会長を置いています。

紅翔祭担当・副会長は、参加する各出展団体との打ち合わせを重ね祭りを盛り上げる調整をしていきます。必要な備品のレンタル、食品衛生管理、出展団体の配置、さ

学友会副会長
情報システム学科3年 森下 可奈子

らにパンフレット作成などを行います。公認団体担当・副会長は各団体の助成金や、大会遠征届が出された団体への補助費を会計担当と審査・協議して決めています。

部活・サークル活動には全学生の約半分が参加しています。大学生活を有意義に過ごしてもらうため不安・不満のないルールづくりに苦心しています。

その根本は充実した大学生活を送ってほしいという思い入れです。それは私たち3役に限らず学友会役員全員の願いであり、各自が仕事に誇りを持って努めています。皆さんのご理解をお願いします。

CONTENTS

2・3面

主な課外活動紹介
平成18年度公認団体・同好会
スポーツ推薦入学表
インターシップ体験報告
実習先一覧

4面

私の研究テーマ
お薦めBook

5面

3年次生ご父母就職説明会
第1回オープンキャンパス

NUIS-LIVE(一日体験入学)
9月卒業生巣立つ
高校長推薦・社会人入試案内
後期学事日程

6面

公開講座特集
「映画の中の市民社会」

7面

10/21・22「紅翔祭」案内特集
山本博氏を招き文化講演会
みずぎ野クリーンアップ大作戦

8面

卒業生の便り
特別公開講座ご案内

記録に挑戦し快汗

平成18年度公認団体・同好会一覧

スポーツ部
陸上競技部/軟式野球部/サッカー部/ バドミントン部/バスケットボール部/ 男子バレーボール部/女子バレーボール部/ テニス部/硬式野球部
文化部
茶道部/吹奏楽部/軽音楽部/ダンス部
学術研究部
フィットネス研究部/国際交流会メコン/ MMC/ESS/中国文化研究会/ コリア研究部
同好会
映画鑑賞/EM1/ Knock Outs/n-VIC EEC/アムネスティn.u.i.s/ロシア研究会/ 空手道/アウトドアサークル/ソフトテニス/ Fifty-Fifty/ACTION



練習に励み技術も向上

テニス部は今年から5年前に同好会として設立されました。現在の部員は男女合わせて15人で、月・水・金曜日の週3回、授業が終わってから学内のテニスコートで活動しています。テニス部はまだ初心者が多くレベル的にはあまり高くはないです。

リーグ昇格を目指して

テニス部

情報システム学科3年 田中 淳

ですが、全員テニスが好きで個々の技術向上のため積極的に練習に励んでいます。私たちの活動は日々の練習のほかに、毎年スポーツ大会の日に市内のスポーツ店の協力で最新のラケットを持ってきてもらい試合を行いました。他大学と練習

私たちが北信越大会上位入賞と、全国大会出場を目標に活動しています。3、4年前はスポーツ推薦で入ってきた強力な選手がいたので、短距離を中心に、上位入賞や全国大会出場も果たしました。ですが、先輩がいなくなり2年ほど前からは部員の数も減少し、強かった国情陸部はもはやリレーすら満足に組めない状況でした。もしも今年の1年生の人数が少なかったら、部の運営も難しい状態だったでしょう。しかし、今年から部員が増え始めてきました。念願のマネジャーも加入し、部の運営もなんとかうまくいさそうです。

全国大会を目標に活気

陸上競技部

情報システム学科3年 岡田 寛清

選手の数が増え、練習にも活気が出てきたし、この夏は、メリハリをつけて集中するところは集中し、リラクセスするところはいいリズムで練習できたと思います。その中で、リレーチームは栗原、東大寺、武田の若手と自分で、上位を十分狙っています。考えると考えています。やるしかないでしょ！がんばろうぜ！やってやろうぜ！残念ながら、選手は紹介しきれませんが、再来年とこのいい流れを途切れさせない事なく、あらたな強い国情陸部をつくってきたいです。

		スポーツ推薦入学者 種別一覧表					
		03年度 (H15年度) ~ 06年度 (H18年度)					
受験年	学科	陸上競技	バドミントン	バスケボール	サッカー	総計	
2003	文化		2			2	
	システム	5	2	2		9	
		計	5	4	2	11	
2004	文化	1	1		1	3	
	システム		1	2		3	
		計	1	2	1	6	
2005	文化		2	1		3	
	システム	1	3	2	1	7	
		計	1	5	3	10	
2006	文化	2		1	2	5	
	システム			2		2	
		計	2		3	7	

社会人へ 大きく成長



BSNアイネット

富士通新潟システムズ

新潟総合テレビ

新潟県経営者協会

情報システム学科3年 野崎 雅裕

8月21日から2週間にかけて、(株)富士通新潟システムズで研修を受けさせてもらった。研修を体験し、私が一番に感じたことは「自身と現場との知識レベルの差の大きさ」だ。もともと私はSEという職種に興味があったので、大学入学時から情報系の資格取得を積極的にに行い、それなりに勉強しているつもりではいたのだが、いざ研修が始まってみると自分の知識の甘さを身をもって感じさせられた。

研修はサーバの構築作業をメインに行ったのだが、示された手順どおりに行うだけの大学の実習と違い、1つの目標の実現のために「自身で調べてそれを表現する」というもので、それは予想以上に手間のかかる作業だった。

現場との知識のレベル差

きたと、今は思う。研修内容は、一言でいうと「運用に必要なサーバを導入したサーバを構築、DNSサーバで自身がつくったドメインを利用し、クライアント側からホームページを閲覧できる状態にする」ということだが、この2週間の研修で得たものは、一言で言い表せないほどの価値のあるものだった。

解決が困難な問題に直面して答えを見出せないとき、それに関連する項目は片っ端から調べ、既存の知識と組み合わせ、自分なりの「工夫」を試してみる。うまくいかないことが多いのだけれども、その失敗は確実に次のつながり、問題解決の道しるべに気づけてくれた。失敗はたくさんあったけれども、それを許してくれる環境を提供してくれた研修先には、本当に感謝したい。自分の考えをチャレンジできる環境があったからこそ、最終的に自身のスキルにすることができた。

(株)BSNアイネット

情報システム学科3年 吉川 貴仁

8月22日から9月1日までBSNアイネットにて学外実習を受けさせていただきました。初日、まず説明されたことは「心構え」であり「責任と義務」でした。

実習といえど業務に携わる以上は学生気分であってはならない。そして会社に迷惑をかけられない。納品日の厳守、守秘義務といった責任や義務を負う。当然のことはいえ、あらためて言葉で説明されると重みがあります。もちろん浮ついた持ちで実習を行うつもりなどありませんでしたが、身が引き締まる思いをしました。その後、開発課に案内していただき、社員の方々の挨拶をして実習が始まりました。

実習期間の前半はクライアントPCのセットアップと手順説明書の作成、後半はマクロを使った

「責任と義務」学んだ実習

約2週間という短い期間ではありましたが、会社人としてあるべき姿や、就職というのに対しての考え方・意識など、大学にいい経験ではなかなか得ることの出来ない貴重な時間を割いてくださったBSNアイネットの皆さん、一緒に実習を頑張ったメンバーのみんなには感謝してもしきれません。

この経験を生かし、今後の大学生活や就職活動に対して大きなプラスになるよう日々を頑張っていきたいと思っています。

管理集計票の作成を行いました。クライアントPCの納品先は県庁と聞き驚いてしまったのをよく覚えています。やることなすこと初めて経験することばかりで毎日焦る感じがながらの日々でしたが、担当してくださった渡辺さんや大橋さん、開発部の部長である佐藤さん、メンバーのみんなに支えられ、期限内になんとかすべてを終えることができました。

会社人としてあるべき姿や、就職というのに対しての考え方・意識など、大学にいい経験ではなかなか得ることの出来ない貴重な時間を割いてくださったBSNアイネットの皆さん、一緒に実習を頑張ったメンバーのみんなには感謝してもしきれません。

この経験を生かし、今後の大学生活や就職活動に対して大きなプラスになるよう日々を頑張っていきたいと思っています。

試合、夏休みには合宿で鍛え、主に市や県のテニス協会が主催する大会に積極的に参加して個々の実力を試したりしています。ここ3年間は毎年大会で入賞者が出ているので、われわれの力もやっとなら通用するようになってきたのではないのでしょうか。

今後の目標としては、北信越リーグにも出場してリーグ昇格を狙っていきたくと考えています。また、入部者の数が年々減ってきている傾向にあるので、皆が入部したがらなくては魅力的な部活にしていきたいと思っています。

中国文化研究会は、「異文化の理解を深める」ことを主軸として、それに関連するもの(歴史、言語、文化)を全般的に学習し、楽しむことを目的としています。部員は、中国語履修学生を中心に、中国に興味のある人たちが集まっています。現在、男子5人、女子14人の計19人で活動しています。部員は多くは留学経験者ですが、未経験の人もこれから留学を考えている人もみんな仲良く活動しています。

主な活動は、中国人留学生との交流会の企画、運営、紅翔祭などの学校行事への参加です。毎年恒例の餃子パーティーや春節など、企画して、中国人留学生との交流を深めています。部内だけでなく、いろんな人が幅広く参加できるような活動をしていきたいと思っています。

中国文化研究会

11民族の衣装など紹介

情報文化学科3年 樋浦 亜希子

11民族の衣装や春節などを企画して、中国人留学生との交流をしています。紅翔祭では漢族、ミャオ族、彝族など11民族の民族衣装ファッションショーを毎年行っています。その他にも、留学アピール活動、書籍を選定し、それについてのディスカッションを行ったり、中国語検定のための学習をしたりしています。今年是中国語検定試験準2級合格者も増えました。また、中国へ実際に研修に行く企画も考えています。部内だけでなく、いろんな人が幅広く参加できるような活動をしていきたいと思っています。



パソコンの中はどうなってるんだ？

MMCとは、Media Creationの略です。私たちは主に3班に別れて勉強や作品を作成する活動を行っています。CG班では、主にフォトショップやソフトを使いCGの作品を作っています。ほかにもパンフレットやポスター制作などを行っています。

MMCにはアレンジなどを加えたりして作品をつくっています。ほかにもPCの組み立て講座やホームページ作成講座などの活動もしています。

MMC

マルチメディアを楽しむ

情報システム学科3年 難波 直道

この講座で、パソコン初心者の人でもパソコン組み立てや、ホームページ作成ができるようになります。また毎年、紅翔祭に参加して名刺などを作成して使っています。資格試験の勉強なども部員同士で教え合っています。部員は28人。男女ともに得意・不得意にかかわらず活動を行っています。

インターンシップ 現場から学び

(株)新潟総合テレビ

情報文化学科3年 塚野 慎也

今回NSTでインターンシップを行い、テレビ局とはどのように成り立っているのかを知ることができました。報道部と放送部の2つの部署で研修をさせていただきました。想像もしていなかったような仕事を担当とこなす社員の方々を見て、今までのテレビ局のイメージが大きく変わりました。

「責任」の重さを再認識

キャスターやカメラマンなどが所属する一見華やかに見える報道部ですが、報道部の方々の地道な作業により、私たちは県内の情報を得ることができるのです。私は何度か取材に行き、取材の準備や、特にカメラマンの仕事ぶりに驚きました。例えば取材で1時間カメラを回しても、ニュースで使うのはほんの1分程度です。その1分のためにカメラマンは何度も視点を変えながら、撮るのに適した映像を撮影しているのです。撮

影に時間をかけるのも、それだけ視聴者に現場の雰囲気を感じてもらいたいということなのでしょう。そしてテレビ局の中で番組のほかに重要な役割を果たしているのがCMです。CMという広告を放送することにより、報道部ではより質の高い番組を制作することができるようになります。私は放送部でCMのファイリングという絶対にミスは許されない重要な仕事をさせていただきました。もしミスをすれば放送事故となり、スポンサーの名譽を傷つけかねないからです。内容を何度も異常がないか確認し、ファイリングするという地味な作業ですが、それをこなすためにはスポンサー料が入ってこなくなり、番組を放送することができなくなるので責任のある仕事なのです。

今回のインターンシップで責任の2文字がどれほど社会人に重くのしかかるものなのかを知ることができました。この経験を就職活動など、これからに生かしていきたいと思っています。

(社)新潟県経営者協会

情報文化学科3年 小出 蘭夢

就職活動をすることを前提に生活してはいませんが、仕事に就くことに対して全面的に興味を持って、積極的な気持ちではありませんが、なので、仕事のひとつとつを体験するのではなく、仕事について広く見渡し、働くとはどういうことか自分なりにつかみたいと思いました。

自分で考えて行動する

最初の壁は電話応対練習をしたときでした。敬語を使いこなすということ、言葉そのものを自分のものにするだけでなく、相手の立場に立った思いやりや心遣いがあったこと、そのなごと思いを話して、お互いに相手に乗せていけるように話をして、気持ちが入っていないと臨機応変な対応はできません。

お役所や施設、企業の訪問、仲間との課題研究

この一週間、自分の足りない部分を見つけたと同時に、仕事に対しての意識が変わりました。社会人には窮乏なイメージがあったのですが、自分で考えて行動し提案していくことによって、自分の思う仕事ができる可能性が広がったのだと知り、想像できなかったものが実際の場の中で考えられたことで、就職に対して少し積極的になれた気がします。

実習先一覧 (順不同)

- 株式会社博進堂
- 株式会社新潟フジカラー
- 東芝ホームテクノ株式会社
- 株式会社新潟日報社
- 株式会社新潟放送
- 株式会社BSNインターネット
- 株式会社新潟インターネットサービス
- サイバーコム株式会社
- 株式会社富士通新潟システムズ
- 株式会社新潟県農協電算センター
- 株式会社ビット・エイ
- 亀田製菓株式会社
- 味の素システムテクノ株式会社
- 新潟東映ホテル
- セコム上信越株式会社
- 新潟商工会議所
- 新潟市沼垂図書館
- 新潟市亀田総合体育館
- 第四銀行株式会社
- 北越銀行株式会社
- 株式会社原信
- 日産プリンス新潟販売株式会社
- 株式会社コロナ
- 株式会社第一印刷所
- 株式会社タカヨシ
- 株式会社北部
- 明和工業株式会社
- イワツキ株式会社
- 片山食品株式会社
- 富士ゼロックス新潟株式会社
- 丸新グループ
- 株式会社エフエムラジオ新潟
- 長岡グランドホテル
- ホテル新潟
- 新潟グランドホテル
- ホテル日航新潟
- 株式会社雅苑
- 株式会社福田組
- 社団法人新潟県経営者協会
- NPO法人虹のおと
- 株式会社新潟テレビ21 UX
- 株式会社新潟総合テレビ

私がこれまでに取り組んできた研究テーマは「近代中国における日本人居留民」です。

中国は現在、目覚ましい経済発展を見せ、中国でのビジネスチャンスをつかもうと多くの日本企業やビジネスマンが進出してきます。2005年現在、中国に長期間滞在する日本人は11万4千人を超え、短期滞在者を含めればその何倍もの日本人が中国で生活しています。しかし、現在から61年前の1945年にさかのぼってみると、当時、日本が「満洲」と呼んでいた中国東北部には約100万人、それ以外

日本の植民地だった台湾には約32万人の日本人が生活していました（あくまでも確認できる数字で、実際はこれより多かったです）。戦前、日本人が中国に進出した理由の一つに、

これはこのように多くの日本人が戦前、中国で生活した経験、すなわち外国経験を持つていた点をあらためて認識しておく必要があるように思います。私は具体的な研究対象地域

「近代中国における日本人居留民」

情報文化学科・助教 小林 元裕

現在と同様、中国での経済活動がありましたが、それらは決して現在のよう中国と対等の立場からなされたものではなく、極めて侵略性の強い性格を帯びていました。私た

として、天津甘栗や天津飯の名称で親しまれる華北第2の都市天津にまず着目しました。そしてここ数年は内蒙古（張家口、大同、フフホト、包頭）での分析を進め、「蒙疆の日

本人居留民」としてまとめました。この成果は間もなく『日本の蒙疆占領』（研文出版）として出版されます。現在、私に残された課題は、「冀東」での日本人を分析すること。日中戦争勃発前、この地で多くの日本人が密貿易に従事し、密貿易品が天津を通じて中国各地に流通し、そしてその収入が内蒙工作に使われました。このように冀東

『ロード・ジム』

ジョセフ・コンラッド著 鈴木建三訳

講談社文庫(2000年) コンラッドはポーランド出身ですが、イギリスに外国人として暮らし、高名な作家になりました。作品は日本語にも訳されていますし、ほとんどの言語でも読めるはずですよ。

『ロード・ジム』は、20世紀初頭、ヨーロッパ帝国主義が隆盛を極めた時代に、南アジアに生きたヨーロッパの蒸気船船長たちの物語です。この作品を読んだ私が思ったのは、ここに描かれた帝国主義のダイナミズムは、外国人英語教師の人生、ことに、

ネイティブ・スピーカーとして英語を話す能力を切り売りして学校から学校、国から国を渡り歩く連中のそれとんと似ていることだろう、また、彼らが教える所どころでも、ネイティブのように英語を話したいと願う人々と彼らの間で繰り広げられる、ときに破壊的なドラマとも酷似している、ということでした。

皆さんでもぜひ本書を手にとつて読んでみてください。そうすればあなたもきっと、日本に住む、英語を話す外国人の隠された世界に分け入ることができるでしょう。

(情報文化学科・教授 グレゴリー・ハドリー)

私の研究テーマ

私は「画像処理」について研究しています。人間がさまざまな情報を得るときには主に目を使っています。この、目により得られる情報が「画像」です。

「画像処理」とは、従来人間が目から取り込み、脳で理解していた画像情報の抽出・認識・理解などの処理を機械に行わせようとする技術です。この研究分野は範囲が広くて、狭い意味では画像を加工する理論や技術を研究することになります。

てきました。ファジー理論とはファジー「あいまいさ」をコンピュータに取り入れる理論です。コンピュータはオンかオフか、0か1かというデジタルの世界ですが、そこに「度合い」

うになります。これの実用的な研究として、医療画像に関する研究を行いました。コンピュータによる医師の診断支援を目標に、マンモグラフィ画像・放射線画像の解析を行いました。

「画像処理とロボット」

情報システム学科・講師 河原 和好

を入れることによって「あいまいさ」を扱えるようにしたものです。

現在の研究の興味として、ロボット、バーチャルリアリティ

品ができるようにアイデアをひねっています。

これらの成果として、チームを組んで大会への出場やコンテストへの参加を目標にしています。

これまで、ファジー理論を画像処理に導入する手法を研究し

理を取り入れることができるよ

技口ボカッパへの出場を目指し、

お薦め Book

本学の図書館では、毎年、学生に薦める本を教員から募っています。個性あふれる教員たちの紹介文は、図書館のWEBサイトにアップしてあります。ぜひ一度アクセスしてみてください。
(<http://www.nuis.ac.jp/ric/bran/book/book2005.htm>)

『ゲド戦記』

ル・グウィン著・清水真砂子訳 若波書店新装版(2009年) LeGuin: The Earthsea Quartet (Puffin 1993)

この夏公開されたアニメ映画『ゲド戦記』は派手な前宣伝にもかかわらず、観た人たちの失望・落胆の声は大きく、評価は最低の星1つが多かった。

『ゲド戦記』とは訳書の題名で分かりにくいですが、原題はEarthseaで、海と多くの鳥々となる著者の構想した架空世界のことである。ゲドとは4部作を通して活躍する魔法使いの名である。映画の失敗は、こ

の4部作を基に人物と状況の勝手に入れ替えて、つまみ食いをしてした脚本にあると思う。宮崎アニメの衣装をまわせたが中身が薄いものになった。そこでぜひ、翻訳でも原著(大学生の英語力で読める)でもよいから原作を読んでほしい。

太古からの生き物である龍が飛び交い、魔法が使われる世界であるが、登場人物たちは、驕りと恐怖、喜びと悲しみ、勇気と失意を抱いて生きていかなければならない我々自身と同じで、感情移入しやすく読みやすい。

(情報システム学科・)

特任教授 荻部恒徳

3年次生 後期「就職指導ガイダンス」予定

平成18年

- 9月21日(木)「後期日程等の説明」
- 28日(木)「4年次生による就職体験談
パネルディスカッション」
- 10月 5日(木)「職業観①(卒業生)」
- 12日(木)「人事担当者によるパネルディスカッション」
- 19日(木)「職業観②(卒業生)」
- 26日(木)「自己分析【自己理解】」
- 11月 2日(木)「業界企業研究」
- 9日(木)「エントリーシート書き方」
- 16日(木)「就活マナー」
- 30日(木)「筆記試験対策①」
- 12月 7日(木)「筆記試験対策②」
- 14日(木)「筆記試験対策③」
- 21日(木)「筆記試験対策④」
- 26日(火)「筆記試験対策⑤⑥」
- 27日(水)「就職模擬試験」

平成19年

- 1月11日(木)「小論・作文対策」
- 1月27日(土)・28日(日)「就職体験講座(模擬面接)」
- 2月14日(水)・15日(木)「学内合同企業説明会」(約160社)

3年次生ご父母対象に恒例の就職説明会



就職活動当時のエピソードを話す卒業生

質疑応答では、成績や資格またアルバイトのことも多数の質問が出され、子供とのコミュニケーション方法について積極的にかかわって行こうとする強い思いが感じられました。

梅雨明けした7月30日(日)、3年次生のご父母を対象にした恒例の「父母就職説明会」が開催され、100人超の多数に参加していただきました。

武藤輝一学長の開会挨拶の後、第1部として、就職指導委員長の岸野清孝教授が「本学の就職指導について」説明。引き続き、「キャリア開発」授業の講師である、就職・採用アナリストの斎藤幸江先生が「豊かな人生に

卒業生の“本音”に聞き入る

つながる、初めての職業選択のために」の演題で講演、学生の目線に立った考え方や企業側の考え方等が述べられました。

第2部では、この春卒業した4名の卒業生の協力で「就職活動時の本音」親に言っていない一言・言っていない一言についてパネルディスカッションが行われました。就活当時の思い出など、さまざまな体験談や親に対する率直な意見が述べられ、参加された方々は真剣な眼差しで卒業生の話に聞き入っておられました。

第1回オープンキャンパス開く

今年度の第1回オープンキャンパスが7月23日(日)、本校(みずき野)で開催されました。300名を超える高校生と父母らが参加、大学概要案内・入試情報などの説明や、模擬授業の体験など多彩なプログラムを楽しんでいただきました。

まず本学の情報文化と情報システムの2学科のカリキュラムの特徴や、入試情報などをスクリーンを使った説

多彩なプログラムを楽しむ 海外留学相談に高い関心

入門 | 「CEP 語学では創造」、



明が行われました。特に入試の詳細な説明には参加者が熱心に耳を傾けていました。学食の試食体験も大人気。在学生のキャンパスプレゼンテーションと食事を摂りながら楽しい交流が行われました。

午後は自由選択で、参加者各自が思い思いのプログラムに参加しました。「行動経済学入門」結婚しない理由、パソコン実習では「売れ筋商品」を探せ(POS情報の利用)、「プログラミング体験」、「バーチャル空間の

本学の特色ある講義を体験する恒例のNUIS-LIVE(1日体験入学)が8月18日(金)、本校(みずき野)で開かれ、高校生や父母の多くの参加者がキャンパスライフの一端を体験しました。

この日の講義内容は全部で9講座におよびました。基礎・共通科目では「企業と経済」、「政治学」、ワークショップで、「平和学」。情報文化学科の科目では「CEP入門」、「中国文化論」、「日韓朝関係論」。情報システム学科の科目では「専

NUIS-LIVE(1日体験入学)

9講座で学生気分

門演習・情報とシステム」、「行動科学」、「人工知能」。多彩な内容の展開に、参加者は思い思いの講義を選択して大学キャンパスの雰囲気を楽しみました。



また、大学説明、入試説明も行われ、熱心にメモを取るなどして聞き入っていました。

お気に入りの授業に参加

平成18年度 後期学事日程

- 9月20日(水) 後期履修ガイダンス
- 21日(木) 後期授業開始
- 10月21日(土) 紅翔祭
- 22日(日) 紅翔祭
- 11月12日(日) 推薦入学試験
- 12月23日(土) 冬期休業開始 ~1月10日(水)まで
- 1月11日(木) 授業開始
- 18日(木) 後期授業終了
- 20日(土) センター試験
- 21日(日) センター試験
- 22日(月) 後期定期試験 ~26日(金)まで
- 2月 2日(金) 一般前期入学試験
- 3月 9日(金) 一般後期入学試験
- 15日(木) 春期休業開始
- 20日(火) 卒業式

高校長推薦・社会人入試

指定校制 公募制 スポーツ 社会人

出願期間：18年11月1日(水) ~ 11月7日(火)
出願期間内消印有効

試験日：18年11月12日(日)
(指定校制は除く)

試験：面接・小論文
(指定校制は除く)

※詳細は平成19年度応募要項で確認してください。
◎入試と奨学金の詳細については事務局までお問い合わせください。
TEL 025-239-3111 E-mail gakumu@nuis.ac.jp



学位記を手渡しして激励

卒業生は情報文化学科3人、情報システム学科6人(1人欠席)。武藤学長が一人ひとりに学位記を授与し、同席した関係教職員らが温かい拍手をおくりました。

武藤学長は祝辞であらためて社会人として船出する学生たちに目標を定め努力するよう激励しました。

9月卒業式

9人が巣立つ

本年度の9月卒業式(学位授与式)が9月15日午後、本校(みずき野)中会議室で行われ、9人が社会に巣立つてい

3本を鑑賞、解説／活発に意見交換

公開講座
「映画の中の
市民社会」

に7月23日は本学吉澤文寿助教授、8月2日は本学アレクサンドル・プラーソル教授、8月23日には慶應義塾大学出岡直也助教授が講演を行い

ました。

3回とも多数の市民が参加して講演に耳を傾け、活発な意見交換も行われました。

『送還日記』

(2003年/韓国/2時間30分)



吉澤 文寿
(新潟国際情報大学助教授)

金東元(キム・ドンウォン) 監督のドキュメンタリー映画『送還

日記(原題「送還」)は2000年9月に朝鮮民主主義人民共和国に送還された非転向長期囚たちの映像記録である。非転向長期囚とは、強制的な思想「転向」に応じず長期間の獄中生活を強いられた政治犯のことであるが、彼らに30年以上の獄中生活を強要したのは韓国の軍事政権における強制転向制度であった。

1973年6月の「思想転向工作班」の設置後、大田、光州、全州、大邱にある矯正所(刑務所のこと)で徹底した暴力などによる強制転向が実施された。この強制転向制度により、政治犯の約7割が「転向書」を書き、獄中死したのも多かったが、約100人が「非転向」を買った。

この制度は思想だけでなく、思想を持つとする心を奪おうとするものであり、日本の植民地支配における法制度の「遺産」でもあった。

韓国では軍事政権下で民主化運動をたたかった、いわゆる「386世代」を中心にこの映画が支持された。彼らは「内面の自由」を守り通した非転向長期囚たちを「先生」と呼んで尊敬し、「転向」させられた者たちの挫折感に対して共感する。その一方で、金東元監督は北の体制への信頼を表明する「先生」たちと、連座制によって韓国社会から疎外されてしまった「先生」たちの家族や、いわゆる「拉北者」の家族たちとの軋轢も撮っている。

『クークーシユカ
ラップランドの妖精』

(2002年/ロシア/1時間44分)



アレクサンドル・プラーソル
(新潟国際情報大学教授)

19世紀初頭、ロシア帝国はスウェーデンから現在のフィンランド地方を獲得する。その100年後、ロシア革命の最中にフィンランド

は独立を果たした。そうした経緯も一因となり、第2次世界大戦期、ソビエトとフィンランドの間にはいっそう複雑な対立関係が生じ、軍事的な紛争へと至っていた。それは「冬戦争」「継続戦争」と2段階に分けられるが、フィンランドはソビエトへの対抗上、ナチスドイツと連合することになる。こうした歴史的背景とロシア国内の当時の状況がある。

映画『クークーシユカ』はこの第2次世界大戦期のフィンランド北部ラップランドが舞台である。少数民族であるサーミ人女性アンニはフィヨルド沿いの一軒家で独り暮らしをしている。そこへ厭戦的なフィンランド兵ヴェイツコと、彼をドイツ兵と誤解したロシア兵イワンが逃げ込んでくる。アンニはサーミ語しか話さない。お互いに言葉がまったく通じないこの3人の中の生活が本映画の中心である。それぞれ異なる文化的背景を持ちながら、どのように3人は意思を交わすのか。映画の多くのシーンを題材に多様な問題を説明。なぜ国境という人工的なものを人々は当然のように思い込むのか。またその国境によって人間はどのようにに区別されるのか。現代のロシア社会におけるフィンランド人に対するステレオタイプなどもあわせて紹介された。

『僕と未来とブレノスアイレス』

(2009年/アルゼンチン・仏・伊・スペイン合作/1時間40分)



出岡 直也
(慶應義塾大学助教授)

まず独立以降のアルゼンチンの歴史の特徴を概観したうえで、移民社会としてのアルゼンチンの人種構成を説明。特にスペイン系、イタリア系というマジョリティと、ユダヤ系、韓国系などのマイノリティ、あるいはポリビア人やペルー人という外国人労働者の間には複雑な関係が存在する。ブレノスアイレスの商店街を舞台に映画でも描かれていたとおりである。

またアルゼンチンは民主主義を支えきれなかったという過去を持つ。他の第3世界諸国に比べて相対的に豊かなが、一般的に「経済発展は民主化を推進する」という法則の例外である。クーデターや軍政を数多く経験してきたアルゼンチンは1980年代に民政に移管したが、その後のグローバル化やネオリベリズム(新自由主義)の影響を受け、いまだに経済は回復しないままである。しかしそれらの経験の中から軍政を絶対的に否定し、民主主義を希求する「市民社会」の進展が見られる。

この映画の主人公はポーランド系ユダヤ人であるが、彼は映画の前半、ポーランド国籍を獲得しブレノスアイレスを離れようとする。高い失業率やインフレなど、そうせざるをえないアルゼンチンの状況のせいでもあるが、個人が自覚的に他の国籍を選択するということは一般の「日本国籍人」には見られないことである。

テーマは
「Wake up brand-new days ~新しいワタシ~」

紅翔祭

10/21(土)・22(日)

今年で紅翔祭は13回目になります。私は過去2回しか知らないのですが、紅翔祭は常に変化を続けてきたことと思います。初の紅翔祭を運営された実行委員会、模擬店やイベントとして参加された各団体の方々には、きつと四苦八苦したことと思います。そうして、回を重ねて改善されて、いつしか現在の紅翔祭のベースとなるものをつくり上げ、それが伝統となりました。またあるときには革新の風が吹き、ライブイベントのよう

第13回紅翔祭の実行委員長を務めることになりました。平らな道を歩いていったつもりが、気がついたら、角田山の頂上に立っていた気分。「私なんか実行委員長が務まるのか」不安と熱帯夜と、なぜか蚊取り線香を付けても通用しない蚊のせいで、睡眠不足が続きました。

今回のテーマは「Wake up brand-new days ~新しいワタシ~」、直訳すると「目覚める新しい日々」です。

な試みがなされ、それもまた後々へと受け継がれ、限りなく完成形へと近づいた紅翔祭。しかし一方で、私は学生たちの輝りを感じずにはいられないのです。水面下で煮えたる熱情、カンフル剤一滴で劇的な変化を起ころうな予感がしています。

祭を盛り上げるのはあくまでも一人ひとりの学生です。私たち実行委員会と、このテーマがカンフル剤となり、参加するすべての学生たちが「新しいワタシ」に変化して、紅翔祭にさらなる変化と、そしてゆくゆくは大学そのものも大きく変えてくれるようにと願いを込め、今年はこのようなテーマとさせていただきます。

「眠っている場合じゃない」

紅翔祭実行委員長 情報文化学科3年 石高 隆仁

文化講演会 10/22(日)

時間/13:00開場 13:30開演
会場/新潟国際情報大学本校 体育館(定員500名)
講師/山本 博氏
(2004年アテネ五輪、アーチェリー銀メダリスト)

演題/「成功を呼び寄せる方法とは」
定員/500人(無料)
申込方法/はがきに「山本博氏講演会聴講申込」
○郵便番号 ○住所 ○氏名 ○電話番号 ○年齢
○聴講人数(上限5名)をご記入の上、お申込みください。
宛先/〒950-2292 新潟市みずき野3-1-1
「新潟国際情報大学 文化講演会 宛」



・受付順に入場整理券を郵送いたします。尚、先着定員(500名)となりしだい締め切らせていただきます。
☆この講演会は、父母会及びみずき会(同窓会)の後援事業です。

講師プロフィール

1962年、神奈川県生まれ。
75年、横浜市保土ヶ谷中学校に入学しアーチェリーに出会う。
78年、横浜高校入学。82年、日本体育大学入学。86年、同大学レクリエーション学研究室に助手として赴任。89年、私立高に保健体育教諭として赴任。2006年、同大学・同大学女子短期大学部助教。
84年のロスアンゼルス五輪で銅メダル。それから20年かけてアテネ五輪で銀メダルを獲得、「日本一あきらめの悪い男」「中年の星」と言われ、さらにもう20年かけて金を狙うと生涯現役宣言し、一躍有名になった。5大会ぶりのメダルは世界初。13大会連続世界大会出場も達成。
著書は「持続力」(講談社)
「最後は願うもの」(ジャイブ株式会社)

主な開催イベント(予定)

- ・模擬店
- ・吹奏楽部ステージ
- ・民族衣装ファッションショー
- ・紅翔祭茶会
- ・文化講演会
- ・ゼミの研究発表・展示
- ・アームレスリング大会
- ・ピンゴ大会
- ・写真展
- ・軽音ライブ
- ・MMCの名刺屋さん
- ・ビデオ上映会
- ・当たり屋
- ・翠の娘杯in紅翔祭
- ・お宝発見!?ホソダ館
- ・Dancer's Party Vol.5(仮)
- ・和坐有

参加者募集! みずき野 クリーンアップ大作戦

- 開催日時 10月22日(日)
午前10:00 大学集合(受付)
午前10:30 作業開始
午前11:30 終了予定
- 開催場所 新潟国際情報大学周辺
(赤塚駅~みずき野ニュータウン)
- 参加申し込み 当日参加も可能ですが準備の都合上、事前に下記アドレスまでご連絡ください。
dousou@nuis.ac.jp
- その他
Ⅰ. 雨天中止としますが、要集合とします。
Ⅱ. ゴミ袋及び軍手は主催側で用意します。
Ⅲ. 参加者全員に記念品・昼食券を用意いたしております。

また今年も紅翔祭には多くの同窓生が、学生時代に学び生活したこのキャンパスに帰ってきます。秋空の下、奮ってご参加いただき、皆で気持ち良い爽やかな汗を流しましょう!

新潟国際情報大学みずき会(同窓会)では、今年も紅翔祭に合わせた「みずき野クリーンアップ大作戦」を実施いたします。
お世話になった「みずき野」町内が、いつまでも美しい街であり続けるために、また、学生時代にお世話になった地域への、わずかながらの恩返しとして、みずき野町内の清掃を実施してきました。1昨年からの企画でしたが、中越地震のため実施できず、昨年は2年分の思いも込めて多くの在校生、同窓生に参加していただきました。

お世話になった地域に恩返し

みずき会会長 高橋 毅

卒業生の便り

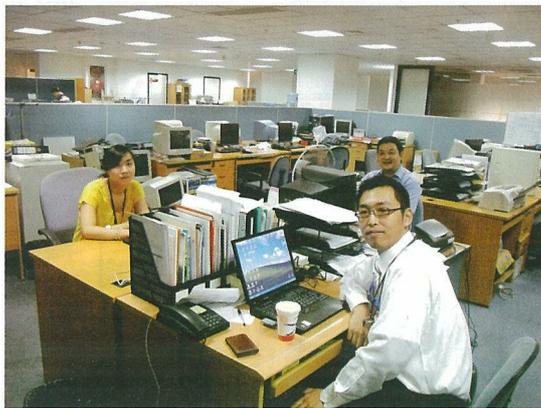
「各位好（みなさんこんにちは）。私は2000年に新潟国際情報大学派遣留学中国コースの第二期生として参加し、中国の文化に触れました。初めて中国に行つたころは「你好」（こんにちは）「再见」（さようなら）のような「単語」しか話すことができません、自分の気持ちを少しも伝えることができませんでした。そんなレベルから始めた中国語も、留学生活を通し徐々に「語句」を話せるようになり、その後、学んだ中国語を活用すべく、昨年5月より中国の上海で仕事をしています。

私の会社（埃幕計算機技術上海有限公司）は日系企業ではありませんが、96%が中国人スタッフであり、社内ではほとんどが中国語での会話。一般生活ではほとんど問題ないのですが、海外でのビジネスはこれほど難しいかと思うようなことがいろいろとありました。ちょっとした言葉の理解の違いから問題が起きてしまう文化の違いを自分の価値尺度だけで判断してしまい、誤解が生じるということについては、留学を通してよく理解していたつもりでしたが、上海での仕事を通しあらためて気づかされました。

上海でITコンサルティング

現在の仕事は、中国に進出する日系企業のITコンサルティングです。私の会社の場合、日系企業を相手に仕事をするので、中国の方のビジネススタイルだけではどうしてもうまくいかないことがあります。現在、中国スタイルのビジネスとお客さまの求める日本スタイルのビジネスの中間に立ち、両方のビジネススタイルがうまく

文化の違いからトラブルも



上海の事務所。右下が宮腰さん。

融合できるように取り組んでいます。文化の違いからのトラブルもいろいろとあります。そのためには経験やノウハウを蓄積して、常に前向きに行動する必要があると思っています。仕事以外の時間では、仲間・友人ももちろん日中の人を問わず遊び、飲んで楽しむことで上海を満喫しています。交流の場は楽しいだけではなく、自分が知らないことを得られるので、自分の視野を広げるためにも情報交換の場として重要なものになっています。

上海の人は基本的に標準の中国語を話しますが、上海には上海語があります。1年たった現在でも意味が理解できません。感覚的には初めて中国に来たときと同じ、新鮮な感覚です。現在は国際家庭を持ち、妻より上海語を習得中です。ビジネスにしろ、一般生活にしろ、海外で暮らす場合はその国の文化を必ず受け入れなければいけないと思います。受け入れてこそ、その国の文化を理解できます。ですが、私がそれと同様に重要だと思つたのが、「日本を知っていること」です。日本を知っていると変ですが、実際に他の国に行くくと、自分の国のことを知らないことに気づきます。知ろうとするだけでいろいろなことが見えてきます。これから海外へ出られる方がいましたら、ぜひ日本について考えてみてください。きっと海外生活の助けになると思います。

新潟国際情報大学 新潟日報社 連携「公開講座」



本学の新潟中央キャンパスで開催して好評の、本学と新潟日報社との連携講座の一環として11月25日、宮田亮平氏（佐渡市出身・東京藝術大学長）を招いて「公開講座」が開かれます。

宮田亮平氏（東京藝術大学長）が講演

11/25

化し、人々の心が和み、豊かな環境が生まれます。芸術は決して前に出るものではないが、あえて意識させなくても感じられる、そんな空気の中にあると、それは身近なものといえるのではないのでしょうか」と、自身の作品を通じて講演します。

宮田氏は1945年、佐渡・佐和田生まれ。東京藝術大学美術学部工芸科、同大学院鍛金専攻修了。

演題は「芸術は身近なもの」。宮田氏は「素晴らしい作品があることで、街が活性化

「芸術は身近なもの」

講師／宮田亮平氏（東京藝術大学長）
演題／「芸術は身近なもの」
開催日／平成18年11月25日（土）
13:00～15:15（予定）
定員／200名（応募多数の場合は抽選）
参加費／無料
申し込み方法／往復はがきに郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、「公開講座」と明記の上、〒951-8068 新潟市上大川前通7-1169 新潟国際情報大学まで
申し込み締切り／平成18年11月10日（金）必着

湧 YUGEN 源

編集後記に代えて

広報委員長 越智 敏夫

先日（のゼミ）で少し議論になったことがあるので書いておく。テレビなどに出てくる「運命判断」とか「前世の守護霊」とか「風水」ということについてである。それらはすべて嘘だ。簡単にいえば詐欺である。しかし視聴者もそれらが出任せたと分かっている。にもかかわらず、同様な番組が氾濫する。なぜそうした「スバリ言」詐欺師たちの意見（というよりは妄想の産物）を私たちは欲しがるのか。それが本当の問題である。

当たり前だが、この世の中は「アハリ言えない」ことばかりである。自分の将来について決めるのも大変だ。いろいろ悩む。ましてや他人さまのことに。意見するなどとさらに困難である。ある人の将来について相談されたとしても、まともな人間なら即答できるはずがない。職業選択ひとつとっても、その人の適正、社会状況の変化や景気の変動など、いろいろなことをまじめに考えれば考えるほど、適切な判断は難しくなる。

ところが、そういうことを誰かに言ってもらいたい人は多い。自分で決断するよりも誰かに背中を押してもらったほうが楽だ。そのための「断言」が欲しい。そこで自我肥大したパロノイアの出番である。さらには職業選択のようなものだけでなく、日常のちょっとした精神活動までも他人に依存しつつある。世界中の膨大な芸術表現の中から自分の嗜好に合うものを探したし、それに接して感動するのもこれは大変なことだ。それよりはテレビが垂れ流す自称「スピリチュアル・カウンセラー」のお手軽な霊魂話で泣きたい。感動の大安売りである。

もうこの流れは止まらない。すでに日本人は自宅のカーテンの色さえ自分では決められなくなり、風水師という下品な人々によって金儲けの餌食にされはじめています。しかしこれはいくらなんでもまずいのではないかと、自分が就くべき職業を、まるで便所マットの色を相談するように他人に聞いていいの。そんなことで幸せになれないという。これはみんな知っているはずだ。結論は簡単である。人は不幸だから占いに頼るのではない。占いに頼るような人間は絶対に幸福になれないだけだ。